象徴空間開設に向けて㉕

「アイヌ文化の復興に期待」

～菅官房長官　ウポポイ視察　開設まで300日～

菅義偉官房長官が6月29日、白老町で国が建設中のウポポイ（民族共生象徴空間）を視察した。ちょうどこの日は開設まであと「300日」の節目。同行した鈴木直道知事らとポロト湖南側湖畔の見晴台から現場を眺め、「アイヌ文化の魅力と自然を実感できる素晴らしいところと改めて感じた」と感想を話した。

国立アイヌ民族博物館の前で説明を受ける菅官房長官（左から3人目）

笑顔を見せながら古式舞踊を体験した菅官房長官

菅官房長官は来場者100万人達成に向け「8言語による解説、最新の映像技術を融合した伝統芸能の披露、繁忙期の営業時間の延長など魅力を高める取り組みを進めたい」と考えを示した。

ウポポイの運営主体となるアイヌ民族文化財団が開業準備を進める旧社台小の視察では、民族衣装を着て同財団職員と古式舞踊を一緒に踊った。「若手のアイヌ文化伝承者の方々が各地で活躍できるよう支援をしていきたい」と語り、踊り手たちの見送りを受け白老を後にした。

戸田安彦白老町長は「町も国、道と連携を取りながらハード、ソフト両面で来場者100万人の達成、まちの活性化を図っていきたい」と話していた。

（広報編集室）

記念撮影に納まる財団職員ら

問い合わせ先：アイヌ総合政策課　象徴空間開設準備グループ　☎82－7739

知っておこうアイヌ文化

刀掛帯　エムシアッ

イランカラプテ。アイヌ民族の男性が儀礼の際に刀を盛装として身に着けるための帯をアイヌ語でエムシアッといいます。エムシは刀を意味し、アッはオヒョウの皮という意味で、材料にオヒョウが多く使われていたことからこの名が付いたといわれています。オヒョウやシナノキなどの樹皮を縦糸に、色のついた綿糸を織り込んで編んでいき、複雑な幾何学模様が織り込まれているのが特徴です。その文様が醸し出す緻密さと美しさは多くの人を魅了します。このエムシアッは儀礼のほか、刀を壁や祭壇に掛ける時にも使われました。儀式の際、エムシはエムシアッを使って利き腕とは関係なく必ず左腰に下げます。ところで、アイヌ民族のエムシは武器ではなく儀礼用の宝物でありました。そのため刃はついていません。また、さびついていますが、それはさびたエムシで切られた魔物は二度とこの世に蘇生できないと信じられているからです。

チキサニでは7月20日㈯、ミニ体験「ストラップ作り」が行われ、参加者の皆さんはエムシアッの伝統的な編み方を生かしたストラップを制作しました。

エムシアッ

アイヌ総合政策課　アイヌ施策推進グループ　学芸員　森洋輔

問い合わせ先：イオル事務所　チキサニ　☎82－6301